



次で「経路選択のポイント」を解説!



# 安全に抜け道なし。「早く到着」よりも「無事に到着」を。

安全には「王道」も「近道」もなく、安全に通じる道は「地道な努力」のみ。

## 「早く到着したい」が命取り! 抜け道に潜む危険な「急ぎの心理」

トラックドライバーだけでなく、勤務時間中に車を運転する方は、多くの抜け道(裏道)をご存じだと思います。では、「信号機がある幹線道路」と「信号機がない抜け道」とでは、どちらが安全でしょうか? 車道と歩道が分離されている、信号機や横断歩道がある幹線道路の方が安全なはずです。幹線道路は「信号待ちの停止時間が発生して時間がかかる」と感じて、「信号機がない抜け道」を選択するのは、「無事に到着」よりも「早く到着を優先」している証拠です。

目的地への経路選択において、「抜け道」を優先することは交通事故の危険が高まります。なぜなら抜け道には、「早く到着を優先」して急ぎの心理で運転している人が多く、「危なくて険しい、危険な道」といえるからです。まさに「安全に抜け道なし」です。

無事とは「事故(故)が無い」という意味です。停止線では、手前で「安全・完全」に停まりましょう。また運転とは「運が転ぶ」と書きます。運転中は、「車で移動」しているのではなく「車を運転」しているのですから、疲れも生じます。信号待ちの停止時間を面倒に思わず「運転中の小休止の時間と捉えれば、安全な方に運が転ぶようになるでしょう。

## 目的地までの運行経路選択は 「安全運行の第一歩」

「夜間の走行時」において街灯が多く見通しが良いのは、抜け道ではなく幹線道路です。道路幅が「広い幹線道路」と「狭い抜け道」では、どちらが安全でしょうか? 社内で問えば、道路幅が広い幹線道路を選択するはずです。それでも商品の配送を急いでいる運転中の車内では、「抜け道」を選択したくなることもあります。しかしその選択は、先に述べたように「急ぎの心理」で「無事に到着」よりも「早く到着」を優先している状態であり、「危険な道」を選ぶことになります。安全に道を通じるには、安全な道を選択することから始まります。

## 道路は生きもの 天・地・人

「同じ時間帯」で「同じ道路」を通行しても、天候で道の上は常に変化するものです。そこで情報収集と状況判断が重要になります。



マンガ制作:ad-manga.com

## 安全指導は地道にコツコツ! それが事故防止のコツ

入社後3~6ヶ月の間に発生する「初任運転者による交通事故発生の要因」を「こ存じでしようか?」そのひとつに、運転に慣れてきた頃のバック走行時に「確認を省く」ことが挙げられます。また、運送の仕事に慣れてきた頃、安全な道よりも早く到着できる道を選択する「経路の選択間違い」によつても事故が発生しています。運転に慣れない頃だけ「経路の指導」をするのではなく、運転に慣れた頃にも「到着時間と到着地を指示」して、「運行経路や休憩地」も確認することで、交通事故防止につながります。

安全に「これさえやれば絶対に大丈夫!」という特効薬のような近道もありません。安全に通じる道は「地道な努力のみ」なのです。

## 安全は、走り方より「停まり方」

停止線の手前では  
安全に停まる!  
+  
完全に止まる!

“停まる”、“止まる”と繰り返して書く、「停止線」。停止線での「停まり方」にはごだわりを持とう!



適切な運行の経路  
及び当該道路における  
道路及び交通の状況

同じ道でも通行するたびに環境が変化しています。天候(上)と路面(下)と交通量(横)の確認と、対処が求められます。特に天(天候)と地(路面)の情報収集と状況判断によって、運転者のその後の人生に天と地ほどの差が出てしまいます。「運(天)が悪いか事故を起こした」ではなく「運(天)に関係なく事故を起こさないための経路の選択」を実践しましょう。

高柳 勝二 (たかやなぎ かつじ)

株式会社 プロデキュー代表取締役。1990年、運送会社にドライバーとして入社し、管理職を経て18年間勤務。2008年に株式会社 プロデキュー設立。中小運送会社からの依頼が多い「提案型」研修は、受講されたドライバーへ管理者からの「おもしろい・聞くならない・分かりやすい」との評判が口コミで広がり、各都道府県のトラック協会や協同組合等の研修会でも講演多数。2016年度より国土交通省「自動車運送事業に係る交通事故対策検討会」委員。